



校訓 青雲大志

学校報

笑顔と挑戦

ともに学び、挑み続ける児童生徒の育成

井川義務教育学校
第 12 号

令和7年1月30日

令和6年度秋田県学習状況調査の結果について

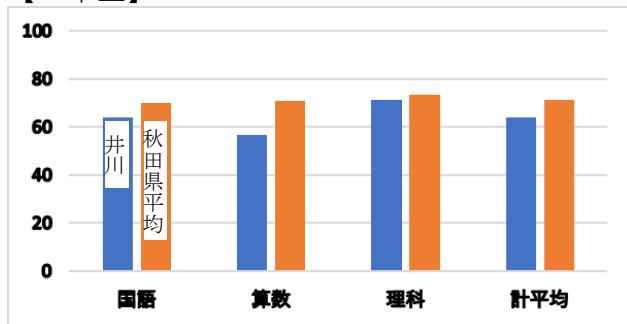
冬季休業中、大きな事故等の報告もなく、1月14日（火）に元気な子どもたちを迎えることができ、大変嬉しく思っています。子どもの笑顔から、家族との年末年始の時間を存分に楽しんだ様子がうかがえました。

さて、9年生はいよいよ高校受験という大切な時期を迎えました。他の学年も一年間のまとめの時期です。栄養のある食事や早めの休養、うがい、手洗いなど体調管理に十分に配慮し、残り少ない2学期後半を充実したものにしてほしいと願っています。なお、本人はもちろん、ご家族に体調の悪い人がいるときには、マスクを着用するなどのご協力をお願いいたします。

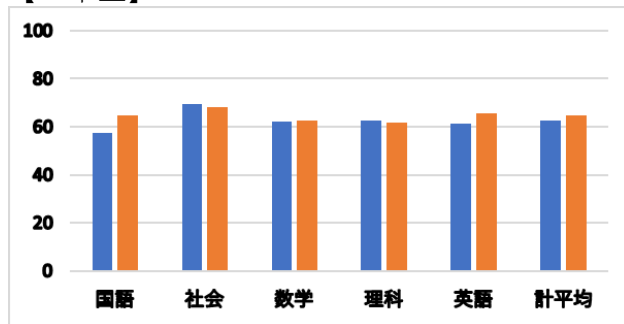
さて、昨年12月に実施された令和6年度秋田県学習状況調査の結果が公表されましたので、本校の結果や今後の取組についてお伝えします。

1 各教科の調査結果から

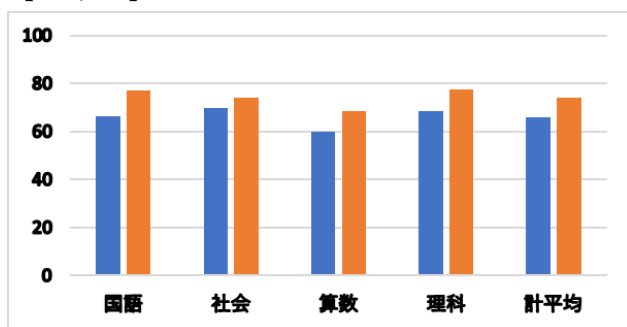
【4年生】



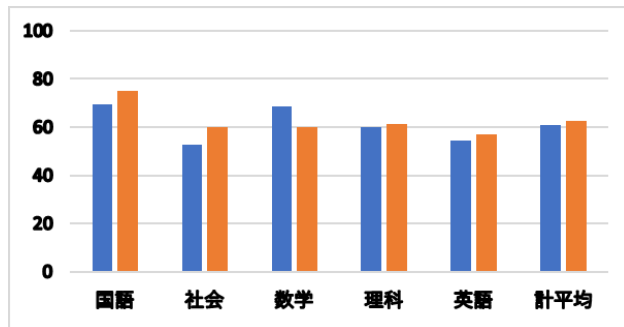
【7年生】



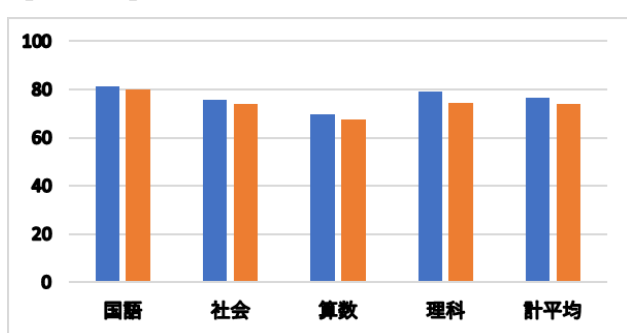
【5年生】



【8年生】



【6年生】



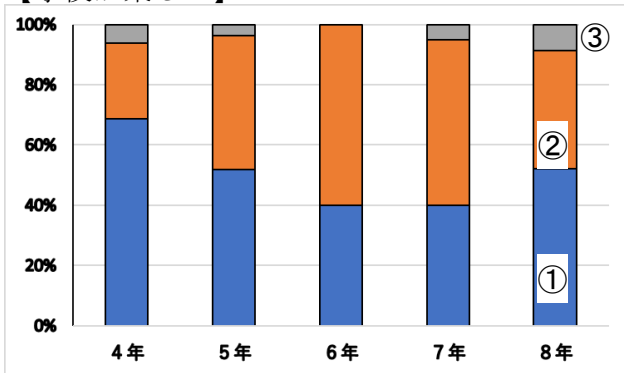
- 6年生の全教科及び7年生の社会と理科、8年生の数学は、県平均を上回っています。
 - 6～8年生では、これまで課題となっていた算数・数学において改善の傾向が見られます。
 - ▲ 4、5年生は、各教科とも学習内容の定着が十分でない様子が見られます。
- 誤答の傾向を分析し、一人一人が理解できるよう、必要な補充学習を行い、学び直しの機会を確保します。

2 学習の意欲等に関するアンケート（質問紙調査）の結果から

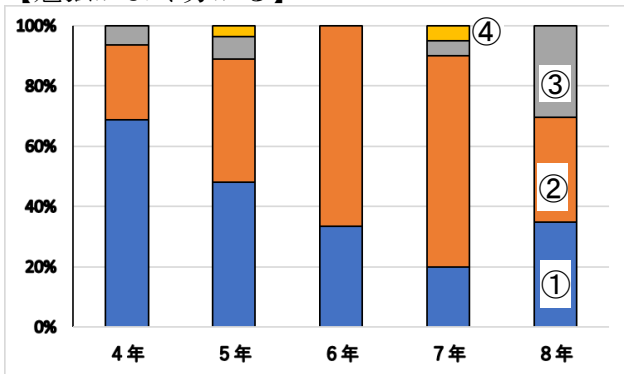
※特に重視している項目について

- ①当てはまる ②どちらかと言えば当てはまる
③どちらかと言えば当てはまらない ④当てはまらない

【学校が楽しい】



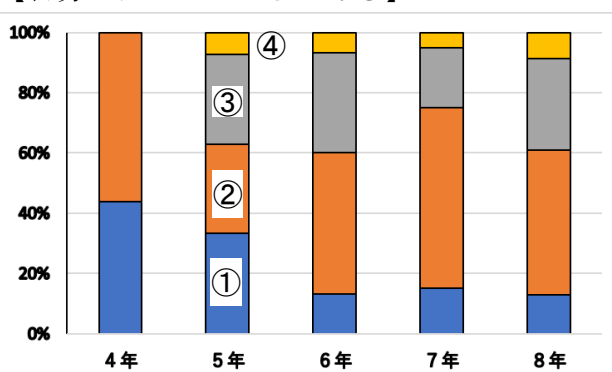
【勉強がよく分かる】



「学校が楽しい」「勉強がよく分かる」の項目は、学校生活をどのように感じているのかを端的に捉える基本的な情報で重視しています。

- 「学校が楽しい」の項目で、肯定的な回答（①②）をした児童生徒の割合は、全学年が県平均を上回っています。
- 「勉強がよく分かる」の項目の回答は概ね県平均と同じような傾向ですが、5、8年生で否定的な回答（③④）をした児童生徒の割合が高くなっています。
 - 一人一人の分からなさや困り感に寄り添う学習指導の充実を図ります。
 - 学習内容の定着に向けて、家庭でも継続的に学習に取り組むことは大切です。本調査で、学校で指導している目安の時間を下回る児童生徒が多いことが分かりました。理解度の個人差にも配慮した学習の仕方を指導していきます。

【自分にはよいところがある】

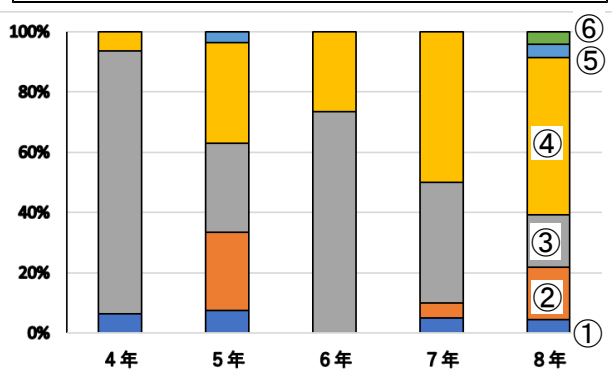


学校生活への適応状況を見る上で、「自分にはよいところがある」の項目を重視しています。

- 5～8年生は県平均と比較して、否定的な回答（③④）が多い傾向にあります。
 - 本来、様々な場面で発揮される「よさ」があります。学習面ばかりでなく、学校行事や部活動などのスポーツ、縦割り班活動などで見られる「よさ」を教職員や児童生徒と共有して、認め支える支援に努めていきます。

【学校がある日の勉強】

- ①まったく、ほとんどしない ②30分より少ない
③30分以上、1時間より少ない
④1時間以上、2時間より少ない
⑤2時間以上、3時間より少ない ⑥3時間以上



「家庭学習の手引き」で示している学習時間は、5、6年が50～60分、7、8年生が100～110分です。限りある時間の有効な活用について、児童生徒会とも連携した指導を継続していきます。

活躍の足跡

【男鹿潟上南秋児童生徒書き初め展】

- 銅賞 5年 ※※※※※
- 6年 ※※※※※



【県新春書き初め席書大会】

- 秀作 5年 ※※※※※
- 9年 ※※※※※
- 佳作 5年 ※※※※※

【第65回秋田県児童生徒美術展】

- 入賞 2年 ※※※※※ (平面)
- 5年 ※※※※※ (平面)
- 7年 ※※※※※ (平面)
- 7年 ※※※※※ (立体)

第2回(12月) 学校生活アンケートの結果について

12月に実施した学校生活アンケートの結果をお知らせします。7月の調査と比較して、生活面では「いじめや冷やかし、からかいがない」が0.2ポイント上昇するなど、全体的に改善が見られました。学習面でも、「勉強がよくわかる」「勉強が分からないと言える」「自分の考えを自分で発表する」といった項目でポイントが上昇しました。これは、日頃の学校における取組の成果であると捉えています。

一方で、学習面における「わけや理由を発表する」はポイントが下降しました。また、生活面では「学級のことを話し合う」もポイントが下降しています。これらの結果を真摯に受け止め、授業における表現力の育成や、学級活動の活性化など、改善に向けた取組を行うよう共通実践を進めていきたいと思えます。

